

# 事業報告書

団体名：かめおか遊友ネットワーク

<b>1. メニュー名</b>	(1) スタート事業      該当するメニューを○で囲んでください (2) <b>ステップアップ事業</b> (3) 市民連携事業																				
<b>2. 事業名</b>	亀岡を元気にするアクションプロジェクト																				
<b>3. 実施場所</b>	京都学園大学体育館																				
<b>4. 実施期間</b>	平成 29 年 4 月 22 日 ～ 平成 30 年 1 月 20 日																				
<b>5. 目的と課題</b>	支援金申請書に書いた、申請事業の目的と設定した地域の課題を改めて記入してください。																				
<p>亀岡市の社会教育団体が1年かけて議論し、亀岡市に教育・スポーツ・文化の垣根を超えたネットワーク組織が必要であると、かめおか遊友ネットワークを設立した。大きな目的は地域課題を笑顔の活動で解決すること。本団体の強みは大学の学生と市民の協働で交流の場・学びの場を創出することである。第1に市民目線で異世代交流の場として立ち上げたのが『かめか WAKUWAKU フェスティバル』。今年は14回目を迎え、南丹教育局とのコラボで実施するなど、多様な組織や人を巻き込んだイベントである。</p> <p>第2の課題は、亀岡市の高齢者の健康問題と役割の創出である。亀岡市と共同で研究者と京都府がプロジェクトを組んで高齢化問題に着手した後、立ち上げた亀岡元気アッププロジェクトをNPOとして独立させて、リーダー養成と元気アップ体操教室立ち上げなどに発展させた。</p> <p>第3の課題は子どもの体力問題とコミュニケーション。フェニックスクリケットアカデミィ京都も立ち上げ、今まで運動参加していない子どもが気軽に活動参加できる環境も整えた。学園大学のレクリエーション研究会の学生が中心となって、異世代交流できる環境となっている。</p> <p>我々は2018年15周年を迎えるが、これまでに培ってきた人のネットワークで亀岡市を元気にする活動を継続していく。</p>																					
<b>6. 実施内容</b>	<b>実施した内容を具体的に記入してください。(実施スケジュール、会場、内容、講師名、参加者数、参加者の声、その他情報など)</b>																				
<p>4月の総会をスタートに『第14回かめおか WAKUWAKU フェスティバル』の屋台主募集。自治会の全戸回覧やキラリ、かめおか遊友ネットワークのホームページ、facebook、亀岡市の様々な会議で声かけをした結果、18の屋台がオープンできることになった。また、南丹教育局の主催事業である子育てフォーラムなどでも募集をかけ、京都府レクリエーション協会からも府下全域に声かけするなど、広報活動が充実した。準備から当日までのスケジュールは以下である。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">平成 29 年 5 月 13 日 (土)</td> <td style="width: 25%;">16 : 30</td> <td style="width: 30%;">亀岡市役所市民ホール</td> <td style="width: 20%;">WAKUWAKU フェスティバル企画会議</td> </tr> <tr> <td>平成 29 年 5 月 23 日 (火)</td> <td>18 : 30</td> <td>ギャラリーかめおか1階創作室</td> <td>屋台主会議 運営委員会発足</td> </tr> <tr> <td>平成 29 年 6 月 10 日 (土)</td> <td>13 : 30</td> <td>ギャラリーかめおか第4会議室</td> <td>フェスティバル運営委員会</td> </tr> <tr> <td>平成 29 年 6 月 20 日 (火)</td> <td>19 : 00</td> <td>ギャラリーかめおか第4会議室</td> <td>フェスティバル運営委員会</td> </tr> <tr> <td>平成 29 年 6 月 24 日 (土)</td> <td>17 : 00</td> <td>京都学園大学体育館講義室</td> <td>前日準備</td> </tr> </table>		平成 29 年 5 月 13 日 (土)	16 : 30	亀岡市役所市民ホール	WAKUWAKU フェスティバル企画会議	平成 29 年 5 月 23 日 (火)	18 : 30	ギャラリーかめおか1階創作室	屋台主会議 運営委員会発足	平成 29 年 6 月 10 日 (土)	13 : 30	ギャラリーかめおか第4会議室	フェスティバル運営委員会	平成 29 年 6 月 20 日 (火)	19 : 00	ギャラリーかめおか第4会議室	フェスティバル運営委員会	平成 29 年 6 月 24 日 (土)	17 : 00	京都学園大学体育館講義室	前日準備
平成 29 年 5 月 13 日 (土)	16 : 30	亀岡市役所市民ホール	WAKUWAKU フェスティバル企画会議																		
平成 29 年 5 月 23 日 (火)	18 : 30	ギャラリーかめおか1階創作室	屋台主会議 運営委員会発足																		
平成 29 年 6 月 10 日 (土)	13 : 30	ギャラリーかめおか第4会議室	フェスティバル運営委員会																		
平成 29 年 6 月 20 日 (火)	19 : 00	ギャラリーかめおか第4会議室	フェスティバル運営委員会																		
平成 29 年 6 月 24 日 (土)	17 : 00	京都学園大学体育館講義室	前日準備																		

平成 29 年 6 月 25 日 (日) 10:00 第 13 回かめおか WAKUWAKU フェスティバル

また、当日の内容及びスタッフは以下で、127 名のスタッフで運営した。参加した子供はスタンプカードをもって、さまざまなアクティビティを体験し、参加証としてかめまる缶バッジとかめまるシールを子どもたちにプレゼントし、喜ばれた。

(内 容)

折り紙・コマ回し・バルーンアート・おじゃみ・あやとり・食品トレイの飛行機・ローンボウルズ・コンビネーションなわとび体験・楽しく作ろう どんぐりトトロ・けん玉・ドッチビー・輪投げ・よさこい舞踊体験・恋ダンス体験・みんなで動こう『かめまる体操∞アッハッハッハ』ミュージカル劇団 ケセラセラ みんなで歌おう・みんなで聴こう 園部吹奏楽団 (\*雨天のためクリケット中止)

屋台主及び亀岡・南丹の市民サポーターと市外からの講師・特別ゲストの皆さん (79 名)

京都学園大学の学生サポーター (48 名)

当日参加者 300 名

<b>7. 成果と課題</b>	事業の実施により、課題解決がどのように図られたのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、事業の効果や成果と課題を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。
-----------------	---

高齢者の調査をしたところ、役割を持っている高齢者は、役割を持たない高齢者より、2000 歩以上外出機会が多く、元気であることが分かっている。我々のネットワークでは、団体会員が、地域の方々の活動や学びの機会を創出するだけでなく、オールかめおか遊友ネットワーク体制で、学びと交流の場づくりを行い、高齢者の外出機会、役割付与の機会を創出している。

活動の渦巻き理論で、事業をすることで、関心のある人、サポートできる人、リーダーになれる人を増加し、我々のイベントを盛り上げるだけでなく、その人たちが、更に地域に戻って、地域の活動を盛り上げていくという方向に意識のスパイラルアップを図ることを目的としている。

市民サポーターも学生も非常に生き活きと活動し、企画力も運営力もアップした。参加者からは「大人から子どもまで、楽しめるからよい。」「子どもが無料で、ゆったり遊べてよかったです。」「みんなで仲良く遊べて、良かったから、来年も行きたい」「楽しい歌や踊り・遊びがたくさんあって、楽しかったから、また来たいです。」「学生が子どもに遊びを教えることは素晴らしい。更なる発展を期待します。」「子どもも、大人も十分に楽しめて、非常に良い 1 日だった」「楽しい屋台がたくさんあって、会場も広く、スタッフも多い。だけど来場者が少ないことが残念です。天候のせいもあるかも、もっと大きく宣伝したほうがよい。曾我部にもっと声をかけるとよい。」などのご意見、感想をいただいた。

本年度の最後に、アウトカムとして、地域貢献アンケートを試みることで、地域に高齢者がどの程度活躍できる場を創出できたかを評価したい。これは、まだ実施できていない。

<b>8. 今後の展開</b>	事業の実施成果と課題を受けて、今後の事業展開をどのようにされるのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、記入してください。
-----------------	---

前回申請時より、各団体が自立した強固な組織となってきた。どのグループも、自立した活動が展開できるようになり、人が育ち、活動の参加者は増加傾向にある。しかし、このような活動に終わりはない。人口減、少子高齢化、ソーシャルキャピタルの構築にも課題がある。自助・互助・共助の地域の絆を強固に育てることが望まれる。常に、地域課題に気づき、その解決を自らが参画して取り組む、そのような仲間を増やすことが必要である。特に、困っている人に手を差し伸

べられる人間関係と利用できる地域資源の創出が必要と思われる。

そのような意味では、一声かけると、すぐに数十人が集まり、行動できる体制があり、素晴らしい活動ネットワークが育ってきたと思われる。

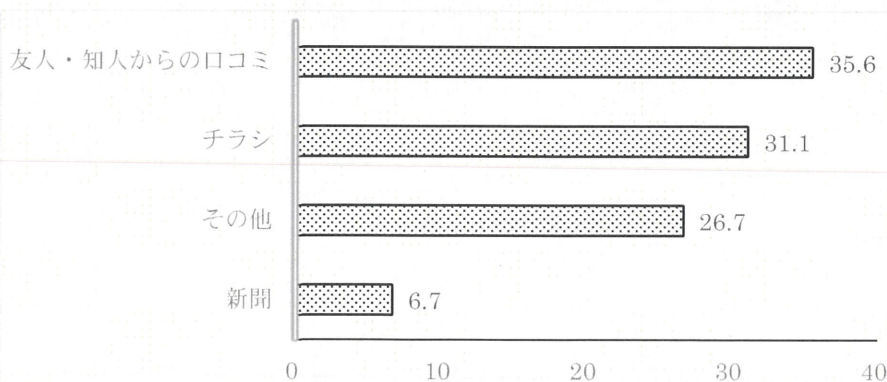
助成金を獲得するたびに、市民参加者と協力者が増え、活動は進化し、一人ひとりが元気になって、感謝と感動の輪が広がり、口コミで活動の輪が広がっているとはいえ、まだまだ、過疎の地域などリーダーが手薄、高齢化が進んでいる地域もあり、協力者や参画者を増やす必要があると思われる。

本支援金による事業終了後は、まず、会員や事業の参加者を増やすことが必要と考える。また、ほとんどの事業は無料で行っているため、他の助成金の獲得なども考えていきたい。年度ごとに、地域課題を掲げて、市民にとって、良い学びや異世代交流の場を提供することで、協力者なども増やし、活動に対して協賛して下さる篤志家なども発掘しながら、活動を充実させたいと考えている。

## 9. 協働の効果

今年度の事業実施にあたって、他団体等と協働（協力）された事例がある場合は、その効果や今後の関わり方について、記入してください。  
※市民連携事業に関わらず、他団体との関わりがあった場合は記入してください。

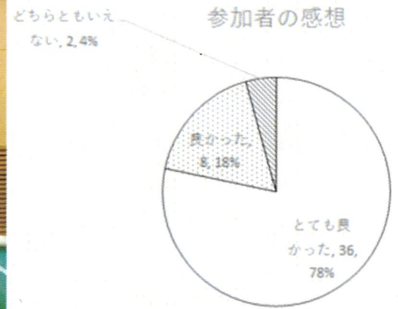
本会はプラットフォーム型の組織であり、最初9団体から4団体が抜けて、6団体が増え、現在は11団体が参画し、それぞれ独立した活動をしている。また、府・市・他団体の後援をいただき、他団体との協働が行われ、さまざまな情報を収集し、行政からの的確な情報やアドバイス、支援を受け、活動が充実してきた。今回、日本ローンボウルズ協会の日本代表選手がローンボウルズをコーチした。淡路島から、どんぐりトトロの達人が来た。園部吹奏楽団も初回から、さまざまな提案イベントを盛り上げていただいている。そのおかげで、口コミ・チラシでの参加が多くなった。



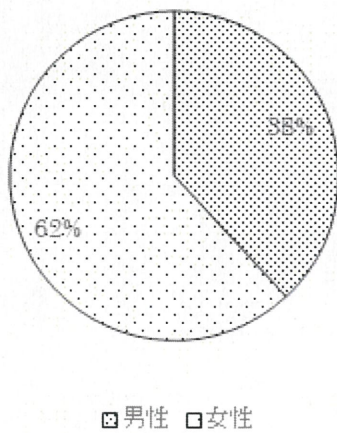
また、子育てフォーラムとコラボをし、南丹地域全体にも広報でき、多くの参加を得ている。

幼児から、高齢者まで幅の広い異世代交流の場を創出できている。

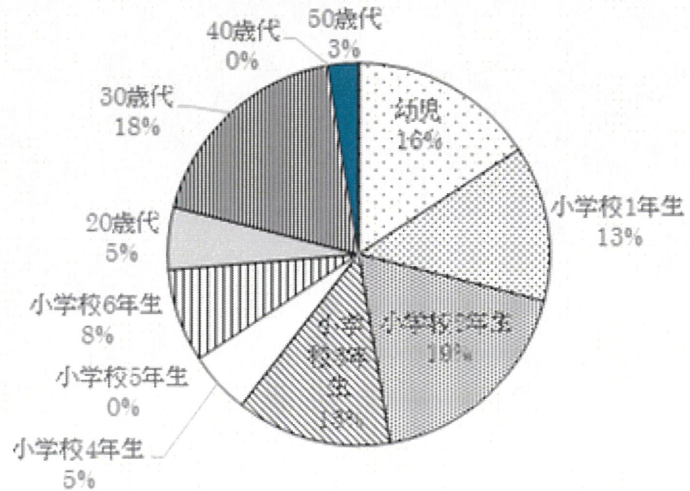




参加者の性別



参加者の年代



\*グラフは参加者アンケートより。参加者の年代にはスタッフは入っていない。  
 スタッフは 18歳～22歳 48名  
 50歳～87歳 79名

※チラシや参加者への配布資料、事業実施写真など実施状況が分かる資料がある場合は添付してください。

※記載内容が本様式に入りきらない場合は、適宜追加してください。